

J-130SX ジェットランチャー シングル コンパクト

このたびはジェットランチャーをお買い上げいただきありがとうございます。組み立てる前に下記を良く読んで組立をしてください。各ネジ類を締める際は潤滑剤等を塗付して締めるようにしてください。

パッキングリスト 箱に入っているパーツを確認します。

番号	品番	名称	数量	税別価格/1個	
1	JS201	取手パイプ J-130S用	1	6,500 +税	
2	JS101	レールフレームセット	2	9,600 +税	JL104付 & エンドキャップ付
3	IB050120AA	38角ブラケットリブ付120mmB (旧品番JS209)	4	2,000 +税	
4	JL104	ランチャー用レール	2	1,260 +税	2番に付いています
5	Z6028-1	38角用キャップ丸穴付	2	600 +税	2番に付いています
6	IB040090AA	38角ブラケット90mm (旧品番JS205)	4	1,500 +税	
7	JS210	フットパイプ445mm	2	1,500 +税	
8	JS212	車軸シャフト J-130SX	2	1,800 +税	
9	JS211	車軸シャフトカラー J-130SX	2	600 +税	
10	JS203	スタントパイプ400mm	2	1,500 +税	
11	JS204	スタントパイプ200mm	2	1,000 +税	
12	Z6037	スレ止め	2	500 +税	
13	JS220	ノットM6φ50黒+ホルトM6-65	2	500 +税	
14	P04-8-50	ホルトM8-50	4	63 +税	
15	P05-08	スプリングワッシャーM8	4	9 +税	
16	P07-08	ナットM8	4	30 +税	
17	P17-16	タンクピンM8-55	4	200 +税	
18	P13-130	Rピン	4	150 +税	
19	TA30F	Fタイヤ30ヘアリング	2	12,000 +税	
20	JL100	ランチングフック	1	1,600 +税	
21	JL405	ランチャー用ロープφ8Φ×1.2M	1	500 +税	
22	Z521	Dリング	2	220 +税	
23	P03-6-52	プラスチック6-52	16	120 +税	
24	P23-06	SUSフランジナットセレット付 M6	18	70 +税	
25	P03-6-45	プラスチック6-45	2	60 +税	

■組立手順 ※組立をする前に完成写真をよく見て、全体のイメージを頭の中で作ってください。

1 レールフレームの組み立て(左右2本)

A. レールフレームのレール部を上にして下側にジョイントブラケットBを差して穴を合わせプラスチックビスM6-52を差し込み反対側よりフランジナットM6で取付けます。

※プラスチックビスの頭がジェットランチャー完成時に外側にくるように差込向きに注意！してください。

2 フットパイプの組み立て(前後2本)

B. 車軸シャフトに車軸シャフトカラーを(穴が外端の向きで)端にかぶせM6ホルト用の穴を合わせます。

次にフットパイプにジョイントブラケットAをナマカット部が内側に向くように差し込み穴を合わせます、そこへさきほどの車軸シャフトを両サイドから差しジョイントブラケットA、フットパイプの外側穴を合わせプラスチックビスM6-52を差し込み反対側よりフランジナットM6で取付けます。

さらにフットパイプ外側の穴にプラスチックビスM6-45を差し反対側よりフランジナットM6で取付けます。

もう1つのフットパイプはジョイントブラケットAのみを組付けます。

※プラスチックビスの頭がジェットランチャー完成時に外側にくるように差込向きに注意！してください。

3 フットパイプとスタントパイプの組み立て

C. フットパイプにスタントパイプ400mmをフットパイプ車軸フレーム付にスタントパイプ200mmを差込、ホルトM8-50、スプリングワッシャーM8、ナットM8で取付けます。

4 フットパイプとフットパイプ車軸フレーム付をレールフレームセットに取付

D. レールフレームセットを逆さまにして、2本平行にならべ、レール端に付いているブラケットにフットパイプ車軸フレーム付を差込み、レール中ほどに付いているブラケットにフットパイプセットを差込みます。

E. タンクピンM8-55とRピンにて取付けます。

5 取手パイプの取付

F. レールフレームパイプの中へ差込みます、この時上下の向きに注意してください

差込みましたスレ止めにホルトM6-65を差し込み、ノットM6φ50黒にて締めます。

G. ランチングフックをロープにて取手中央へ結びます(アイストラップに直に結ばずに、アイストラップに通して必ずパイプに結んでください)

最後にタイヤを車軸へ差込んで、抜け止めDリングを差して完了です。

■使用上の注意

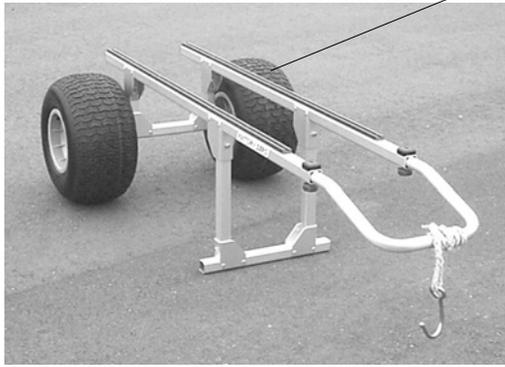
●一人乗りジェット以外には載せないでください、破損の原因になります。

●ジェットランチャーを使用する前に必ずネジ、ボルト類の点検、締め直しをしてください、緩んだまま使用しますとフレーム等破損の原因になります。

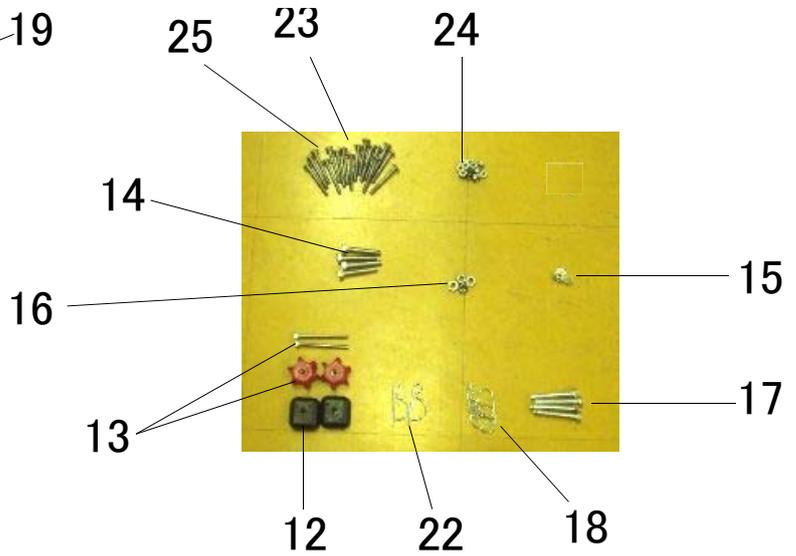
●悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください、無理をしますとフレーム等破損の原因になります。

●輸送時は必ずランチングフックを艇にかけてください。

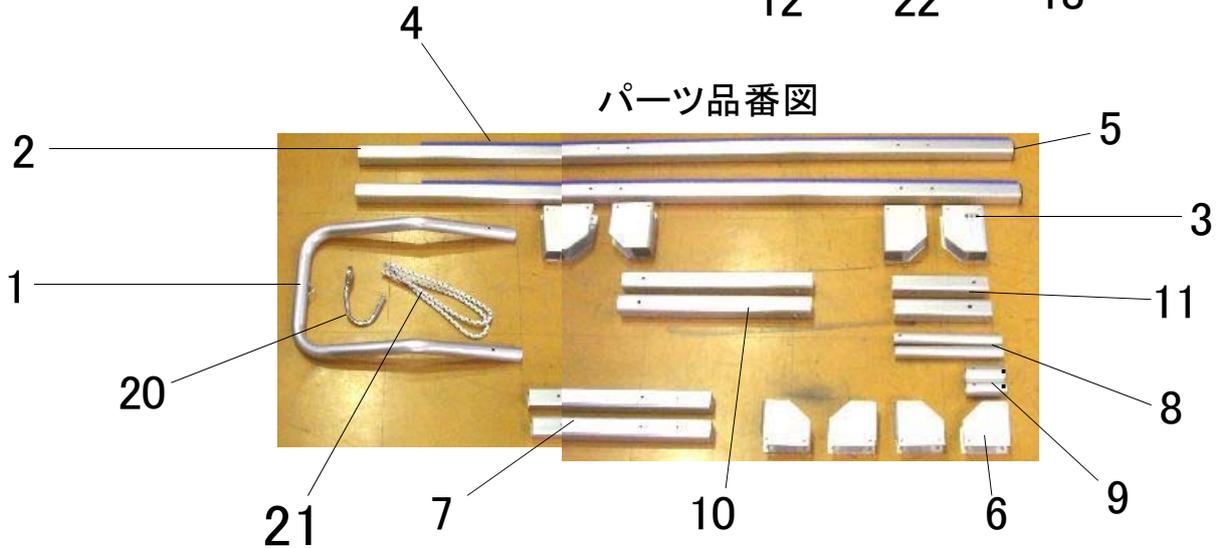
J-130SX



完成写真



パーツ品番図



A レールフレームにジョイントブラケットBをトラスビスでナマカット部が内側の向きに2個取付ます。完成時トラスビスが外側の向きになります。



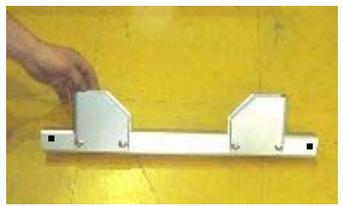
B 車軸シャフトに車軸シャフトカラーをかぶせM6ボルト用の穴を合わせます。



車軸は2ヶ所で固定



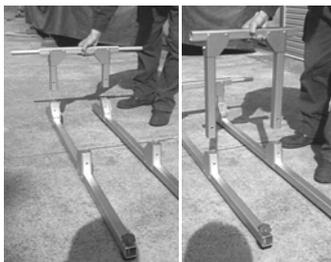
フットパイプにジョイントブラケットAを写真の向きにかぶせ先ほどの車軸シャフトをカラー側からフットパイプに差しジョイントブラケットA、フットパイプの穴を合わせトラスビスM6-52、外側はM6-45で取付。完成時トラスビスが外側の向きになります。



もう一つのフットパイプはジョイントブラケットAのみを組付けます。



C フットパイプにスタンドパイプ400mmを差込、車軸フレームを組んだフットパイプにスタンドパイプ200mmを差込みM8ボルト類で固定します。



D レールフレームにフットパイプを差込ます。車軸付はレールパイプの端側です。



E タングピンM8-55とRピンにて取付ます。



F レールフレームパイプに取手を差込スレ止め、ボルトM6-65、ワッシャM6φ50黒にて締めます。



G ランチングフックをロープにて取手に結び完成です。

タイヤご使用上の注意

このたびは当社製品のお買い上げまことにありがとうございます。
当社エアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

TA30F / TA30G / TA30J (F タイヤ、G タイヤ、J タイヤ) (ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8KG~1.0KG 位にてお願い致します。特に夏場は直射日光にて内圧が高まります必ず 0.8KG 以下でご使用下さい。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください。
- 車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5KG 以下にして下さい。
- 車内等に入れる場合走行中や停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が下がりますとタイヤの内圧が下がりチューブレスタイヤの為空気が抜けてしまう場合が有りますので船を載せて保管される場合は時々チェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置しますとタイヤがビギ割れし空気再注入不可能となってしまいます、長期保管の場合は台車の下にかいもの等を入れておくと良いでしょう。
- エア-漏れでも早期に対処していただければ十分再生いたしますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。

TA30A (A タイヤ) (アルミランチャー、トランスアムドロー等) に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8KG~1.0KG 位にてお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります、又冬場は逆に低温にて空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください。
- 車内等に入れる場合走行中や停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化が早まりますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。
- 交換用タイヤ(外側) チューブ、別途販売しています、適宜交換下さい。

TA30D (D タイヤ) (マルチドロー、Z071 前輪、等) に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0KG~1.5KG 位にてお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります、又冬場は逆に低温にて空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください。
- 車内等に入れる場合走行中や停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化が早まりますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。

上記全てのタイヤについて

- 車軸部にベアリングが内蔵してあります、ベアリング部にはグリス等塗布しないようにして下さい、砂、埃、が付着し磨耗の原因となります、ベアリング分は良く水洗してください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品ございますので、補修をしてください。
- 空気を入れる場合がリンスタッド等においてある自動車、バイク用、空気入れで入れられます一般用自転車用空気入れではバルブ形状が合いません。

取扱上の注意事項

ご使用前に必ず熟読しお守りください！ 取扱説明書、パーツ表等は大切に保管してください。



●段差のきつい所での走行や内輪差による後輪の衝突などに注意してください、破損の原因になります。



●取っ手部での艇による手の巻きこみに注意してください。



●ジェットの上に乗せての走行は危険ですのでおやめください。



●坂道では十分に減速し走行してください、急な動作で艇がズれる場合がありますので注意してください。



●ジェットを水に降ろすとき、ジェットランチャーがタイヤの浮力の反動で飛び出してくる恐れがありますので注意してください。



●タイヤを車内に入れる際は0.5Kgに減圧してください。(別途タイヤ取扱説明書を参照してください。)

- ご使用前には必ずボルトやネジ、リベット等のゆるみがないか確認してください、ゆるんだまま使用すると事故、破損の原因になります。
- ジェットランチャーをご使用の際は必ず複数人にて行ってください。
- 輸送時は必ずランチングフックを艇にかけてください。
- 各ジェットランチャーの適応PWC以外は絶対に乗せないでください、破損の原因になります。
- 動力等での無理な牽引は絶対におやめください。パキーでの牽引の場合は別途オプションにてJL268 カプラーキットがございます。
- 悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください、無理をしますとフレーム等破損の原因になります。
- 水が浸入した艇は予想以上に重量が増えていますので必ず排水してから乗せてください。
- 定期的にジェットランチャーの各部が磨耗していないか等を確認して、磨耗していた時はすみやかに部品を交換してください、そのまま使用すると事故、破損等の原因になります。
- すり減ったレールでのご使用はリベット等で船体が傷つく恐れがあります、必要に応じて交換してください。
- 艇によってはレール幅が合わずライドプレート等でフレームにキズつく恐れがあります。
- ジェットランチャー使用時、使い方によっては艇にキズつく恐れがありますのでご注意ください。
- 長期的に保管される場合はタイヤの空気圧等を定期的にチェックしてください。
- 素手足で不用意にパイプのカット部等触れますとケガの原因となります、必ずグローブ & ブーツを着用の上ご使用ください。
- 高い位置からの乗せ移し(トラック荷台等)は危険です、またランチャーの破損の原因になります。
- その日の気象状況を十分に確認し、波風が強い日はご使用をおやめください、状況によっては乗せ上げの際、艇にキズつく恐れがあります。
- 荒れた海面でのご使用はジェットランチャーが暴れますので十分にご注意ください。
- 万一誤った組立て、もしくは使用方法でのトラブルには応じかねますのであらかじめご了承ください。
- 不明な点、その他お問い合わせありましたら、お買い求めの販売店までご連絡ください。